

《担当者名》准教授 / 大澤 宜明 講師 / 土田 史郎

【概要】

論文の抄読を中心とした演習を通して、分子生命科学特論の講義内容についてさらに理解を深めることを目的とする。

- ・分子生命科学セミナーに続き、遺伝子疾患をキーワードに最近の文献を抄読し、遺伝子工学やタンパク工学に関する応用的知識を習得する。
- ・ウイルス感染による細胞傷害、ウイルス感染に対する細胞の防御機構、感染による細胞機能調節などに関する最近の文献を抄読し、感染と宿主応答の生物学的意義について、専門的知識を習得する。

【学修目標】

- ・特論に関連するこれまでの研究成果を調査できる。
- ・調査内容の社会的有用性について評価できる。
- ・特論に関連する発表論文を検索し、内容をまとめることができる。
- ・研究課題の内容及び論文調査の内容を発表し、討論することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	ウイルス感染による細胞傷害	・ウイルス感染による細胞傷害に関する論文を欧文雑誌より探索し、ウイルス感染機構について概説できる。 ・種々のウイルスによる感染機構の特徴について説明できる。	大澤 宜明
3) 4	ウイルス感染に対する細胞の防御機構	・ウイルス感染に対する細胞の防御機構に関する論文を欧文雑誌より探索し、生体防御機構について概説できる。 ・ウイルス感染に対する防御機構の特徴について説明できる。	大澤 宜明
5) 6	感染による細胞機能調節	・感染による細胞機能調節に関する論文を欧文雑誌より探索し、自然免疫について概説できる。 ・様々なウイルス感染による細胞機能調節の特徴について説明できる。	大澤 宜明
7) 8	感染と宿主応答の生物学的意義 -まとめ-	・課題に関連するこれまでの発表論文を理解し、まとめることができる。 ・成果を発表し、討論することができる。	大澤 宜明
9) 10	生体機能と関連因子(1) - 遺伝子と疾患 -	・遺伝子と疾患について概説できる。 ・遺伝子の変化がもたらす疾患について、説明できる。	土田 史郎
11) 12	生体機能と関連因子(2) - 腫瘍マーカーと疾患 -	・腫瘍マーカーと疾患のメカニズムについてその関連性を説明できる。 ・腫瘍マーカーの有用性について説明ができる。	土田 史郎
13) 14	生体機能と関連因子(3) - 生理活性物質と疾患 -	・各疾患における生理活性物質変動の意義について説明ができる。 ・生理活性物質の検出(測定)法について説明ができる。	土田 史郎
15	生体機能と関連因子(4) - まとめと総合討論 -	・課題に関連するこれまでの研究成果を調査できる。 ・課題に関連するあるいは興味ある発表論文を理解し、まとめることができる。 ・成果を発表し、討論することができる。	土田 史郎

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポートと課題 70%、学習態度（出席点を含む） 30%

【教科書】

欧文誌論文

【学修の準備】

テーマ及び関連分野の基礎的知識を確認し、テーマとなる論文の内容を理解できるように準備する。